

2006 年度

科目名 コミュニティ研究演習	対象学科・学年 文学部コミ3回生	担当者 岡島 克樹
授業テーマ 教室では学ぶことができない方法で社会の仕組みや人のつながりを学ぶ		
授業の概要と目標 コミュニティ研究演習は、社会の仕組みや人と人とのつながりを体験的に学ぶことを目的としている。より具体的には、学生それぞれが関心ある行政機関やNPO法人、法律・会計事務所、民間企業その他を選択し、その組織の概要や背景を研究した後で、実際に、80時間以上のフィールドワークを体験する。フィールドワーク後は、そこでの実際の経験を振り返り、報告書を作成する。		
評価方法 フィールドワークの実施前・実施後の研究、フィールドワークの報告書、フィールドワーク受け入れ先による評価を総合的に見て評価する。		
テキスト ゼミの指導教員から適宜指示。	著者	出版社
参考書 ゼミの指導教員から適宜指示。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 <内容> 実習先はさまざまあり、内容もまちまちであるが、以下のポイントに留意する必要がある。 ● フィールドワーク先の選択： これまで受け入れ実績のある諸団体が SHARE の巻末にリストアップされており、また南大阪大学コンソーシアム（南大阪地域にある大学の連携機関）が提供するインターンシップもあるので、これを参照しながらフィールドワーク先を選択すること。なお、例年、複数のフィールドワーク先を選択している学生も多くいる。リストに含まれていないフィールドワーク先（例えば、海外でのフィールドワーク）も行うことが可能な場合もある。自分のゼミの指導教員と事前によく相談をすること。 ● フィールドワーク前の予備研究： 選択したフィールドワーク先の組織概要や活動内容、背景など、フィールドワーク開始前に一定の情報を集め、予め研究しておくことが望ましい。また、同時に、フィールドワーク先で円滑な研究を行うために身に着けておくべき基本的なマナー等もあるので、ゼミの担当教員からのアドバイスに従うこと。 ● 他科目との関係： 選択したフィールドワーク先の活動内容に関しては、すでにこれまで1回生・2回生の授業で学んだ内容と関連していることが多い（例： 地域コミュニティを強化・活性化することを目的とした団体をフィールドワーク先とした場合は「まちづくり論」や「ボランティア論」）。また、フィールドワーク先で実際の仕事を体験しながらその活動について学ぶ方法についても、既に、フィールド・リサーチで参与観察やインタビュー法などの方法を学んでいる。 ● 実習後の振り返り： コミュニティ研究演習の重要な部分として、実際のフィールドワークで得た経験を振り返り、その結果を報告書の形で書き記すということがある。フィールドワーク終了後、記憶が鮮明な間に、それぞれのゼミの担当教員のアドバイスに従いながら報告書作成に着手すること。 <スケジュール> 個々人によってコミュニティ研究演習の日程は異なるが、基本的には以下のようなスケジュールを想定しているので、参照すること。 1. 「コミュニティ研究演習」の全体オリエンテーション（4月） 2. それぞれのゼミの教員による指導のもと、各自フィールドワーク計画書を作成（4月） 3. それぞれのゼミの教員による指導のもと、各自フィールドワーク先について予備研究を開始（4月） 4. 各自フィールドワークを実施しながら、実習日誌作成（原則6、8、9月） 5. フィールドワーク受け入れ先からの評価送付（10月） 6. それぞれのゼミの教員による指導のもと、各自報告書（SHARE）を作成（10-12月） 7. コミュニティ関係学会・人間社会学会においてプレゼンテーション（2006年1-2月） 8. 総合評価による成績（2月）		